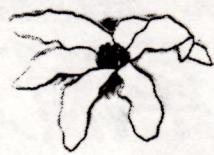
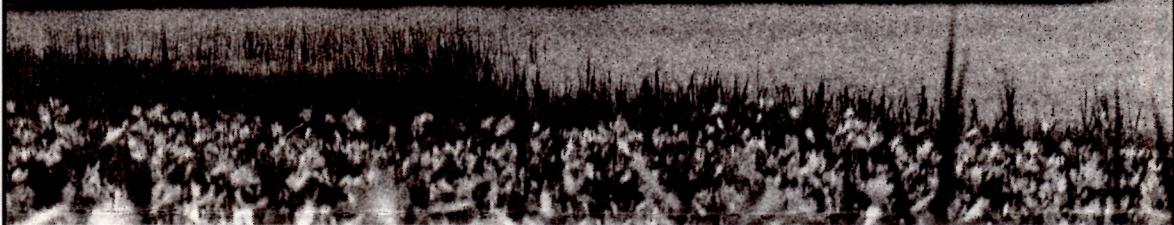


尾瀬の自然  
四季

# 尾瀬の自然



(題字 初代環境庁長官 大石武一氏)



## ■特集 尾瀬フォーラム・福島



オーバーユース  
山小屋周辺では人の  
踏み付けで草も生え  
ない。(山ノ鼻地区)

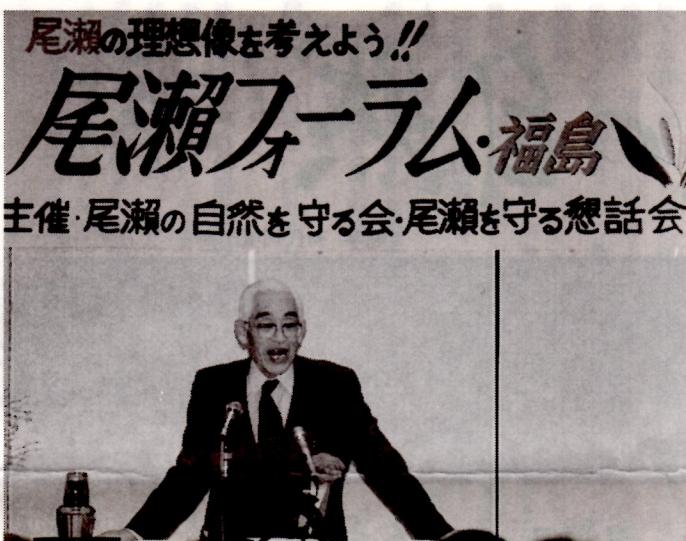
尾瀬の自然を守る会

## 尾瀬の湿原破壊と困難な回復作業

元福島県尾瀬保護調査会会長 馬場 篤

去る三月一八日(日)、福島市民会館において開催された「尾瀬フォーラム・福島」は、福島県における尾瀬集会の初発であったが、国会議員を含む一般参加者は、受付名簿において一九一名を数えて、

これに会員二五名、報道関係一七名を加えると、二三三名に達する盛会となつた。協賛団体である日本野鳥の会福島県支部代表、福島県自然保護協会代表の挨拶のあと、講師である馬場篤氏と大石武一氏



熱弁をふるう馬場篤氏

の熱弁が続いた。本号では、馬場篤氏の講演(要旨)を収録した。(文責・編集部)

### 初めての尾瀬

私が尾瀬に初めて入りましたのは昭和二年であります。もう六十年余り過ぎておるのですが、私が何故尾瀬に魅かれたかと申しますと、当時武田久吉先生という植物学者がいらっしゃいましたが、高山植物の研究をされていた。その先生が書かれた尾瀬の植物の本を読んで、そのころ私は植物に大変興味を持つっていましたから、是非この目で確かめて見たい、そういう気持ちになつたのです。7月末に入つたのでありますが、当時は沼田から鎌田までしかバスはありませんでした。そこからてくてくと歩いて鳩待峠を越えて尾瀬ヶ原に入り、そして東電のボーリング小屋の萩原さんを頼つて厄介になつたのです。萩原さんからはあれやこれやと教えて頂き非常に心打たれる

ものがありました。それで尾瀬というものは忘れられないところになつてしまつて、また来年も行こうということで、三年続けて尾瀬を訪問したのです。

燧ヶ岳や至仏山にも登りました。至仏は登山道がなくムジナ沢を詰めて登りましたが、その沢のハイマツ帯をくぐり抜けたところに見事なお花畠がありました。これは日本アルプスのお花畠に劣らない。しかもその植物が全然違うのです。それまで私は北アルプスを歩いて来ましたので多少高山植物は知つておりましたが、あの北アルプスに見られなかつた植物が至仏山で見られるには非常に感激ありました。

長蔵じいさんにもお会いしました。長蔵じいさんは沼の畔の小さな小屋に住んでおりましたが、小屋の庭にコマクサを作っていました。私達も燧ヶ岳に登つてきたのですが、コマクサには気がつきませんでした。それでその生えていた場所を知りたくて長蔵じいさんに聞いたのですが、「お前たちには教えられない」と、結局教えてもらえませんでし



尾瀬の原始性

首都圏に近いところでありながら、その原始的な景観、

た。こういう経験をしながら私は次第に尾瀬に魅かれていったのです。

前に聞いたのですが、「お前たちには教えられない」と、結局教えてもらえませんでし

1990年6月10日

原始的な植物を有している場所は尾瀬以外ないでしょう。いまから何千年も前と同じような原始的な山々、原始的な森、原始的な川の流れ、それを味わえるのが一つの魅力だと思います。

それなのに、若い人たちのなかには、ラジカセをガンガン鳴らして尾瀬を通る。そういう人は尾瀬に来てほしくない。

尾瀬は九月末で雪です。そういう厳しい側面がある。だが穏やかな時もある。小鳥のさえずりを聞き、蝶が舞うのを見たり、魚が泳ぐ姿を見たり、これらは原始そのままに保たれている。そこに浸つてもらいたい。

尾瀬は、一人で行けばどんな寂しいところであるか。私は尾瀬の荒れた跡を復元するため、二十年間尾瀬通りを続けました。月に一度は入山し生育状況を調べてきたのですが、ときには夕方四時ごろ御池に着くことがありました。そして裏塗林道を歩いて尾瀬ヶ原まで行くのです。全く一人であの薄暗い林の中を歩くというのは、本当に孤独

の寂しさを味わいますね。が、それが本当の尾瀬の姿だと思うのです。

### 尾瀬の多様性

尾瀬ほど狭い場所でいろいろなものを見ることができる

のは、おそらくほかにないと思うです。尾瀬の山地帯は、一、五〇〇メートルまではブナがありますね。そこから上になると、亜高山帯の常緑針葉樹林帯になりますが、そこにはオオシラビソやオゼツウヒ(葉の先がとがっている)の林があります。そのちょうど移り変わりのところで、いろいろな植物を見ることがあります。

尾瀬の山々はどうかといえば、富士山のようななだらかな斜面をもった燧ヶ岳は、コニード火山です。アスピーテ火山の皿伏山がある。これは本当に平らな姿をしています。アヤメ平原も平らな溶岩大地になっています。景鶴山の場合には、山頂に溶岩が吹き出ている帽子を被ったようなトロイデ火山となっています。まるで火山の見本のようないろいろな形の山があるわけです。

地質を調べてみると、燧ヶ

岳や三平峠の附近は安山岩になっていますが、西端の至仏山は蛇紋岩という塩基性の非常に強い岩質です。これは岩がスベスベしている。濡れるところで石鹼の上にあがつたようにツルツルしている。三条ノ滝附近は花崗岩です。

### 尾瀬は案内が必要

尾瀬ヶ原を歩いてくる人は、湿原に花が咲いていれば湿原を観察するでしょうが、花がないときには単なる草原にしかうらない。私が復元作業をしていると、「尾瀬はミズバショウで有名ですが、どこにあるのですか」とよく尋ねられました。ミズバショウといふのは、あの高層湿原にあるはずがないのです。ミズ

バショウは、養分がある川の流れに添つてあるのですが、高層湿原には流れはなく、ミズゴケが繁殖して盛りあがって形成されています。その湿原には湿原なりの植物があるわけですが、それを細かに観察して歩けば楽しいのです。ですが、それを見る目をもたない人がほんとうに多い。

湿原のなかに、たまに紅色のアサヒラン(サワラン)や

ピンク色のトキソウをみつけることができます。これらは目に留まりますので、よくハイカーが足を留めて観察していますが、同じ湿原にヤチラソという珍らしいランがあります。これは目立たないので、よほど注意して見ないとわからない。ふつうランの花は、いちばん下の花びら(唇弁)は昆虫が止まれるように大きくなっていますが、花弁となつていていますが、ヤチランではこれが逆さまになつていて。こういう貴重な花が足もとにあります。それを見る目をもたないがために、ただ通り過ぎていくハランがいかに多いか。ほんとうの尾瀬は、案内者なしではたぶんわからないでしょう。

### 子々孫々に残こせ

尾瀬には数百種類の植物が生えています。そのなかに尾瀬で発見された植物が三〇種類ほどあります。一ヶ所でこれだけ発見された場所は他にないでしょう。そして実物を見られるわけですから、博物館にいられるよりは価値があります。いま、入山料問題が論議されていますが、いくらお金を払つてもいいのではなく、それが、それを見る目をもたらす人がほんとうに多い。

いかと私はそう思うのです。高いお金を払つて入つたとすれば、なにかしらそこで知識を得ようとするとと思うのですが、皆さんどうでしようか。山に登つて景色を眺めたいだけの人は何も燧ヶ岳に登る必要はない。北アルプスなどにけばはるかに良い眺めを楽しむことができるのだから。尾瀬でなければならぬ人、尾瀬を愛する人だけが尾瀬に来てほしい。又、入園料を徴収するならそれなりの教育機関が必要になるでしょう。尾瀬の各入山口に設置してそしてレンジャーが入山者を引率して説明して歩けば、これは素晴らしい博物園になるだろうと思います。そして何千年か前のむかしにかえつた思いで、大自然のなかの一員として、人間が自然を征服するというような考えではなく、人間もそこに住んでいる動物と対等の関係にある。そういう気持であるならば尾瀬を荒すようなひとはいないだろうと思うのです。そしてこのすべらしさ博物園を私たちの世代で終らせるのではなく、子々孫々まで残し続けるのが私たちの義務であると思うのです。

森林の破壊

ることもあります。何年か前に台風が尾瀬を通りまして、沼山峠のオオシラビソが何十本もなぎ倒されてしまいました。そういうことはままあつたでしょう。燧ヶ岳を見ますと、ところどころ林の中に穴があいてしまつたような青々としている所があります。これはササが生え繁つた場所です。そこにはダケカンバがよく生えていますね。沼山峠の倒木にも、いまダケカンバが生え始めています。もう二、三〇cmになりました。ダケカンバやシラカバは陽樹ですから高木が倒れて光が当つてくと発芽し生えてきます。だがササの中にはなにも生えることができないのです。だから人間がいったん皆伐すれば、容易に元通りに回復できるものではないのです。

と盛り土の部分があるわけですが、盛土された側が余計枯れてしまうのです。これは根元からでも、土を厚くかけられたため窒息したのだと思うのです。いわばん枯れ易い木はネコシメツですが、その後にブナが枯れてきます。もう少し上へいけばオオシラビソやコメツガが枯れています。

もうひとつの問題は、原生林を上と下とを分断して吹き抜けの道路をつくったことがあります。尾瀬は暖かい季節になつてからもよく寒いものがあります。山の上の方はとくに寒いんです。その寒い空気が林の中へ侵入していくのを林全体で防いでいるのです。林の外側の木は、枝が下の方から伸びて風の侵入を防いでいます。林の中の木は枝が少なく木の上部にしか伸びていません。その林の真中に道路をつくったわけですから冷めたい空気がどんどん入ってくるようになりました。春になると木々は活動をはじめ水を吸い上げます。このときに冷気が入つてくると、水分が凍結して幹が縦に割れます。いわゆる凍裂現象です。その凍裂した木がいま

道路の両側あちこちに見らわれます。これは木の寿命を縮めているひとつの証拠なのです。樹木だけではなく、その下に生えている植物も減っています。人が全部持つていません。とは思えない。たとえばトガクシソウやシラネアオイといふ美しい花が、あの車道添いにあります。これがやはり地球がいまよりももっと暖かかったとき（最後の氷河期の前の氷間期）の生き残りの植物だといわれています。そういう植物がなぜ尾瀬で生きてきたか、それは雪があつたからです。それは雪の下で保護されて生きのびてきたのです。雪の下は0度C以下には下らないからです。南向きの雪解けの早い場所では発芽が早いですが、その時期に寒気に襲われて芽がいたんではないですか。それもやはり森林を伐採したことによって大きな原因があるのじやないかと思います。

ん外側へと歩くようになつて、雨が降ったときにはその粉が湿原の中や池塘の中まで流れ出します。そういう裸地になつたところにはどんな種を蒔いても新しく育つことはないのです。それでも何とか緑化しなくてはと湿原の一部を切り取って、裸地化した場所に穴を掘り入れてやつたのです。これを私たちには『ブロック移植』と言っているんです。ですが、この緑のブロックから新しい芽が生え出して周囲に広がるだろうと予想しておりました。ところがこれが全く広がらない。それはブロックと掘った穴の間が乾燥する隙間ができ、雨が降ると水分を吸収して膨張して塞いでしまう。この繰り返しでブロックから芽を出して繁殖をすることができないので、このように湿原の復元には非常に苦労しています。今日確かに緑は回復しましたけれども、湿原を元通りには復元できません。そこをまた歩くと泥炭が粉状になつてしまい、雨が降ったときにはその粉が湿原の中や池塘の中まで流れ出します。そういう裸地になつたところにはどんな種を蒔いても新しく育つことはないのです。それでも何とか緑化しなくてはと湿原の一部を切り取って、裸地化した場所に穴を掘り入れてやつたのです。これを私たちには『ブロック移植』と言っているんです。ですが、この緑のブロックから新しい芽が生え出して周囲に広がるだろうと予想しておりました。ところがこれが全く広がらない。それはブロックと掘った穴の間が乾燥する隙間ができ、雨が降ると水分を吸収して膨張して塞いでしまう。この繰り返しでブロックから芽を出して繁殖をすることができないので、このように湿原の復元には非常に苦労しています。今日確かに緑は回復しましたけれども、湿原を元通りには復元できません。

いません。尾瀬ヶ原の湿原には多少の起伏があり、そこに生えていた植物が全然違う。この僅かな地形の違いがその植物に色々な影響を及ぼしています。湿原はほとんどがミズゴケで覆われていますが、そのミズゴケの種類が尾瀬ヶ原には二種類もあるのです。こんなに多くの種類のミズゴケが一ヵ所にあるのは世界中探しても他にないでしょう。ミズゴケは湿原の高い所、低い所でその種類が違っています。そこに生えている他の植物も異なっているのです。だからこれを元通りにしろと言われても出来る相談ではない。せめて緑を回復することが出来たことで許してもららしかたないあとはもう自然の力に任せることしかありません。そのお伝いをしなければ緑の回復にまでさえいかないのです。

## 尾瀬の楽しみ

尾瀬には皆さん気が付いていない楽しみがたくさんあります。例えばニッコウキスゲがありますが、あの花が『一日花』であるというのは誰しもお分かりになつてゐるでしょうが、花が咲いてからどう変遷していくか観察している手引書は皆無ですね。ニッコウキスゲは花が咲きますと、その雄しべの先に花粉の袋が付いているわけですが、開花直後はその袋が切れておりませんので雄しべは黒紫色をしています。ところが一時間ぐらいために咲くことがあります。黒い経ちますと、縦に割れてしまつた花粉袋が黄色の花粉がでてきます。黒っぽい花粉袋に黄色の縦線が入つてゐる様子が見えます。もつと時間が経ちますと全部黄色になります。こうなつたら四~五時間たつたな。ニッコウキスゲは一斉に開花しませんからこのように雄しべの色で咲いた時間を推測できるのです。こういうのを見歩くのも楽しみですね。

オタカラコウという植物があります。あのオタカラコウは、花が咲くときは上向きになつて咲いているんです。花

尾瀬には皆さんが気付いていない楽しみがたくさんあります。例えばニッコウキスゲがありますが、あの花が『一日花』であるというのは誰しもお分かりになつてゐるでしょうが、花が咲いてからどう変遷していくか観察している手引書は皆無ですね。ニッコウキスゲは花が咲きますと、その雄しべの先に花粉の袋が付いているわけですが、開花直後はその袋が切れておりませんので雄しべは黒紫色をしています。ところが一時間ぐらいために咲くことがあります。黒い経ちますと、縦に割れてしまつた花粉袋が黄色の花粉がでてきます。黒っぽい花粉袋に黄色の縦線が入つてゐる様子が見えます。もつと時間が経ちますと全部黄色になります。こうなつたら四~五時間たつたな。ニッコウキスゲは一斉に開花しませんからこのように雄しべの色で咲いた時間を推測できるのです。こういうのを見歩くのも楽しみですね。

## 将来の資源

尾瀬ヶ原は寒冷な気候で酸性が強く、しかも貧栄養の土壌になっています。その厳し

が咲き終わつたら、皆下向きになつてゐる。これは一体どういうわけだらうか。尾瀬は雨が多いから、雨を受けないようになつてゐるんじやないかと思うんですが、確しかめておりません。

ミヤマニガウリという植物があります。これは夏のころに白い花をつけ丸い実がなります。秋になると葉っぱがそろそろくるんでしまいます。そういう不思議な動作をするのです。

自然というものは誠に奇妙です。これは普通の博物館にいっても説明してくれないし観察することもできないが尾瀬の博物園では実際に見ること

ができる。違う時期に来ればまた違つたものを見ることができます。尾瀬というのは月に一度の頻度で行つては、その舞台がすっかり変わつてしまいそのつなぎ目がわかりません。つなぎ目を見たいなら

尾瀬を守ろうとする熱意が会場にあつてゐた。二十一世紀を前にして、この十年の間に何らかの手を打たなければ

尾瀬は滅びるという危機感は共通のものである。集会の成功は福島市の清野、八巻両指導員に負うところ大きかった。

尾瀬フォーラム・福島の最後には、当会の児玉事務局長から「尾瀬の保護と利用のためのマスター・プラン」について問題提起がなされた。質疑応答も活発に行われ、尾瀬を守ろうとする熱意が会場にあつてゐた。二十一世紀を前にして、この十年の間に何らかの手を打たなければ

①氏名(ふりがな)②年齢  
③性別④職業⑤現住所⑥電話  
⑦尾瀬入山回数⑧1年あたりの自然との接触回数⑨前⑧の具体的接觸方法⑩自然観察会等への参加の有無⑪他に受けた指導員講座⑫尾瀬の自然保护のためあなたは何ができるですか。

九 現地研修講師陣  
河内輝明(本会指導部長)  
八木幸一(本会指導部幹事)  
狩野俊輔(本会自然保护指導員)

## 第12回 尾瀬自然保护 指導員養成講座

五 問合せ、申込先  
〒158 東京都世田谷区深沢  
五二二五一一〇

岸 好人方

尾瀬の自然を守る会尾瀬自

然保護指導員養成講座係あて  
電話03(704)23933夜間

可能な自然保护指導者の育成を図り、自然保护の推進を目的とする講座。尾瀬に体験をもつ方、ぜひご参加下さい。

六 受講の許可  
提出されたレポートにより書類選考し、受講許可者にはその旨連絡します。受講許可の方は、前納金一萬円を現金書留で納入、残金は現地研修の際納入とします。キャンセルの場合は、前納金の半分をお返しいたします。

七 申込の締切  
七月二十日(金)必着

八 資格の認定  
現地研修及び室内研修の両方を受講した者には、講座修了証を交付し指導員候補として会に登録します。また修了証を持っている者で、尾瀬現地で入山者指導を行い、その資質ありと認められた者は、指導員として会に登録し、指導員のワッペンとネームプレートを交付します。

九 現地研修講師陣  
河内輝明(本会指導部長)  
八木幸一(本会指導部幹事)  
狩野俊輔(本会自然保护指導員)

# 水彩写生旅行

尾瀬日記(十) 大下 藤次郎

(日本水彩画家)

## ■ 冬期スキー実態調査

去る五月四日、ゴールデン  
ウィークの最中に、昨年に引  
き続き冬期スキー実態調査に  
入った。当日の参加者は、内  
海代表のほかに、梅山、平井、  
奥平、生方、六本木、秋山、  
青木の各指導員、計八名。

今年は雪が少なく、牛首を  
過ぎて中田代に入ると、木道  
が露出し雪解け水があふれ、  
湿原も顔を出していた。  
スキーパークも鳩待峠や至仏山  
から降りてきて、そこまで来  
ると引き返していた。われわ  
れも引き返したが、山ノ鼻で  
三十人ほどのクロスカントリ  
のグループにぶつかった。ト  
ップとラストに指導員が付い  
ているから間違はないだろ  
うが、この人たちのどれほど  
がこの雪の下の湿原に対し  
心をもっているか疑問だ。

山ノ鼻のキャンプ場には、  
三五張りほどの色とりどりの  
テントが張つてあったが、今  
年はロープが張りめぐらされ  
ており、昨年のよう上田代  
湿原や山ノ鼻湿原の上まで張  
り出してはいなかつた。  
上田代でミズバショウが顔  
を出している川縁に寄つて行  
く午後は『堂小屋』附近に出かけた、彼の「ツヅヂ」の庭も繪に入れた、觸れたらば溶けそうな若草の  
緑が美しい、霧は矢張り深い。(直)  
『尼瀬湖』畔の景色は雄大といふのみでもない、又優美一方でもない、両方を兼ねてゐるので、風

景としては、吾輩が今迄歩いた處では以上の場所ではない、一ヶ所に三脚を据へたら、只其體の方向を變へさへすれば何處でも繪になる、一つの場所で、五枚や六枚の趣の變つた繪を作ることが出来る、實に景色の美は絶対で、ドンナ趣味の人でも、此自然に對しては不服の出處があるまい。森の影には白石楠花が真盛りである。(鷗)

夕食は八木君の料理で「イワナ」の御馳走であつた、懷中汁粉も出た。

今宵一夜が終りなので、先生はピストルを空に發つ、音は寂寥を破つて森から森へ山から山へ響き渡つた。僕等も各々一發づゝ發つ、何となく氣がスー<sup>ト</sup>する様だ。蠟燭も二本つけた、今日迄物も音はなかつた八木君は急に元氣が出た、屋内は頗る賑はつた、「實は夜になると電車のゴウツと云ふ音が聞きたくて」と云つたのは僕だ、赤城君は「晝間はいつ迄も居たいと思ふが夜になると歸りたくなつてしまふ」と云ふ、銘々心弱い事を白状した、先生は朱の盤の化物語をされた。

寝しなに赤城君の足の方でガサ／＼と音がする、赤城君は薄氣味悪るさうに搜したがモウ音もせねば形もわからぬ、暫くすると又ガサ／＼云ふ、また搜す、わからぬ、復ガサ／＼する、搜す、わからぬ——益々氣味が惡るい、兎かも知れぬと云ひ出したが誰一人表へ出る者がない、仕方なしに四人一時に飛び出して搜したが、ヤツバリわからぬ、結局蝦蟇と云ふ事にしてしまつた。(直)

夕飯は實に結構であつた、「ハム」も少々飽きたし、佃煮も鼻についた、一番よかつた茄子の辛子漬はト－になくなつた今日、捕りたての岩魚といふ御馳走がある「目の下尺五寸もある大きい奴が、ザユ／＼と焼けるのを待つてゐるその樂しさ、いよいよ箸をつけて見ると、是は又非常の美味で、一同喜色満面飽くまで詰込んだ。

此夜は最後といふので皆々元氣だ、蠟燭は二挺も灯して大に景氣をつけた、直さんの出した懷中汁粉は十個ある、一人前二つ半だ、盛んに湯を沸してすゝり始めた、吾輩は面倒だから二つ半一度に茶碗へ入れて飲んで仕舞つたが、中には大切がつて半分宛入れて五杯にして飲んだ人もある。(鷗)

つたら、ゴミが一山ぶちまであつた。スキーパー客を目の敵にするわけではないが、スキーパーもキャンプも尾瀬では有害だ。山の鼻から鳩待への登りで雨になつたが、ほとんどまだ雪の中なのに乳飲子のような子供を抱いた入山者に会つた。山小屋の営業開始も早すぎるが、あまりに早い尾瀬入山ではないか。(青木記)

**ブナ平は、伐る予定か**

この四月二八日、林野庁は「森林生態系保護地域(保存地区及び保全利用地区)」を発表したが、その中に利根川源流、燧ヶ岳周辺というのが含まれていた。

この木を伐らない地域は、燧ヶ岳から沼尻に降りるライソの西側、尾瀬ヶ原、景鶴山、大日沢山、赤倉岳、巻機山、大水上山、平ヶ岳、裏燧部分を含む国有林約二万三千haであるが、燧ヶ岳東側、沼山峠、ブナ平を含む松枝岐側の国有林は抜け落ちている。

林野庁は、ブナ平の原生林をねらっていると見られても抗弁できるか。指定した地域は、伐つても持ち出しにくいところだけではないか。

## 90年観察会②

## 初夏の尾瀬ヶ原

## 90年観察会③

## 至仏山の高山植物

とき 1990.6.17(日)～18(月)  
 集合 6月17日(日)午後4時まで、片品村土出温泉  
 千代田館に集合

計画：第一日 午後4時受付

午後7時～8時・事前学習

第一日 午前6時千代田館出発 午前7時鳩待峠から観察

開始 天候良・山の鼻～上田代～牛首～竜宮～アヤメ平～鳩待峠 天候悪・山の鼻～上田代～牛首～竜宮～山の鼻～鳩待峠

午後4時千代田館・解散

費用：8000円(一泊2食宿泊費・昼食費・バス送迎費等)

人員：15名(先着順)  
 申込・連絡先：〒370高崎市江木町165 TEL 027(23)9302

講師 高井 昭  
 費用 会員 七千円  
 会員外 七千五百円  
 申込期限 六月二十日  
 申込先 群馬県北群馬郡子持村村上白井二二〇 生方欣司 電話 0279(53)3385

申込金 一千円(申込確認後生方あて送ってください)

等々力徹郎絵画展

とき 8月8日(火)～12日(土)  
 9時から17時まで  
 ただし、初日は12時開場、最終日は3時まで

ところ 練馬区立美術館区民ギャラリー(西武池袋線中高橋駅北口徒歩五分)

講師 古見満雄(群馬県自然保護指導員)  
 波戸場秀幸(自然観察指導員)

■故等々力徹郎氏は、会のバジやワッペンの図案等、大変お世話になりました。展示会の飾付など手伝える方、松現金書留又は図書券で受け付けています。当日の参加費用の内金とします。不参加の場合は返金しません。

講師 古見満雄(群馬県自然保護指導員)  
 波戸場秀幸(自然観察指導員)

■故等々力徹郎氏は、会のバジやワッペンの図案等、大変お世話になりました。展示会の飾付など手伝える方、松現金書留又は図書券で受け付けています。当日の参加費用の内金とします。不参加の場合は返金しません。

## 月例観察会

資料代 一〇〇円  
 (子供は無料)

自然の回復が試みられている三宝寺池を訪ねる

とき 六月十七日(日)  
 十時～十二時まで

集合 石神井公園三宝寺池脇の茶店前

交通 西武池袋線石神井公園南口下車徒歩10分または西武新宿線上井草駅下車バス

解説 石神井公園野鳥と自然の会、金沢伸行さんほか

注意 小雨程度なら決行。

連絡先 武(夜間045-756-0083)

■ビデオ「尾瀬の自然」  
 監修 尾瀬の自然を守る会  
 制作・著作 日本テレビ  
 価格 六、八〇〇円  
 (VHS 三〇分トランク)

申込先 会事務局へ

## 新入会員

## (五月十五日現在)

星 喜一	喜一	会田 長栄
林 千絵	千絵	笛谷 浩二
小野里正子	小野里正子	荒井 一男
南 公	南 公	中田 雄三
中田 佳子	佳子	新井 文三
粕谷 照美	照美	遠田 喜美子
矢中 幸雄	幸雄	梶原 正三
屋舎 雄一	雄一	田中 淳一
大沢 武徳	武徳	光山スミコ
高橋 弘二	弘二	石川 利昭
高柳 直樹	直樹	木村 紀久
木村 恒人	恒人	柏谷 一郎
河野 茂邦	茂邦	野川 緑道
山田 武寛	武寛	竹田 正彦
星 瞳子	瞳子	柏谷 一郎
高野 均	均	大須賀 廉
木戸 正子	正子	小川 初代
古畑 ハツ子	ハツ子	菊田 隆志
星 セツエ	セツエ	古屋 悟
赤羽 晴子	晴子	加藤 衛
真弓ヨシ子	ヨシ子	熊田 マツミ
佐藤喜美子	喜美子	池田 久美子
山寺 由里	由里	関根 源作
道宗 千恵子	千恵子	道宗 明香
佐藤 周	周	中山 ミツイ
卷渕 好以	好以	関根 マツ子
岡野 仁	仁	道宗 直昭
和田 規子	(敬称略)	道宗 直昭

## カンパの報告

次の方々からカンパをいたしました。誌上を借りてお礼申し上げます。

善積勇(故人)  
 中田 喜直  
 荒木 鶴代  
 伊藤 文子  
 大須賀 廉  
 佐藤 利明  
 大竹 洋子  
 白岩 成子  
 羽田 博子  
 大隅 保光  
 計 一四三、七〇〇円

■尾瀬の自然 第53号  
 発行 尾瀬の自然を守る会  
 発行日 一九九〇年六月十日  
 発行者 内海広重  
 編集者 青木安弘  
 事務局 〒156 東京都世田谷区桜三一三十三一  
 担当幹事 坂井崇浩  
 講師 馬場 篤 先生  
 (四四七)一八七七 詳しく  
 (四四七)一八七七 詳しく  
 は「指導員通信」でお知らせします。

等学校生物教室内  
 電話 03(425)4481内43